

# 平成28年度第1回鳥取県総合教育会議 議事録

## 1 日時

平成28年6月23日（木） 午後3時から午後4時30分まで

## 2 場所

鳥取県庁 議会棟3階特別会議室

## 3 出席者

知事 平井伸治  
教育委員長 中島諒人  
教育委員長職務代行者 松本美恵子  
教育委員 坂本トヨ子  
教育委員 若原道昭  
教育委員 佐伯啓子  
教育長 山本仁志  
教育委員会事務局 理事監兼博物館長 大場尚志  
有識者委員 浅雄淳子  
有識者委員 石原太一  
有識者委員 竺原晶子  
有識者委員 福島史子  
有識者委員 山内 晃  
有識者委員 横井司朗

## 4 あいさつ

### (事務局)

- ・本年度第1回総合教育会議の開会に当たり、平井知事より挨拶を申し上げる。

### (知事)

- ・日頃は本県の教育行政の発展のために様々なお立場からご助言をいただき、また委員としてご活躍をいただいておりますこと、感謝を申し上げる。本日はこの後、平成27年度大綱のフォローアップや、今後のことについて語り合う場となる。ぜひ忌憚のない意見をいただければと思う。
- ・ちょうど昨年今頃に鳥取養護学校の問題があり、これについてはその後、総合教育会議の場で体制整備を図ろうということで皆様の総意がまとまったことを受けて、このたび人材確保などを進めてきたわけであるが、学校看護師長1人と、5人の学校看護師が配置されるということで、昨年の私たちの話し合いがそのまま政策として実現することになった。事程さように、ここでの議論がどういうふうになっているのか皆様にもフォローしていただき、新たな提案もいただきたいと思う。
- ・また併せて、小規模校のことなどの諸般の課題もあるので、その辺もまた認識を共有し、限られた時間ではあるが、議論ができればと思う。
- ・実は原案にはなかったが、美術館の問題も当然ながら教育委員会の行政の一つの大きな分野であり、それについていわば民意を注入する場として有識者の方々も入っている総合教育会議で議論すべきだろうということで、急遽議題に追加したところである。急遽であるからといって遠慮していただく必要はないので、しっかりと思いの丈をお話いただければと思う。このたび、県議会が閉じたところであるが、県民の関心が非常に高い教育委員会の所管分野となってきた。つい先日は4つの候補地を絞り込むということで、別の検討委員会、専門委員会の議論もまとまったわけだが、何のためにそうした学校教育などに役立つ、子どもたちの成長にも役立つ、地域にも役立つような美術館ができるのか。その辺の理念の共有だとか、必要性の論議も大切である。今の議論の経過も皆様にもお聞きをいただきながら忌憚のないご意見を賜ればと思う。限られた

時間ではあるが、有意義な議論になることを期待申し上げ、本県教育の発展に大きく貢献することを願いながら、私からのお願いとさせていただきます。

#### (事務局)

- ・続いて、中島教育委員長より挨拶をお願いしたい。

#### (中島教育委員長)

- ・お忙しい中、時間をいただき感謝申し上げます。初めに知事から鳥取養護学校の子どもの件について話があったが、現在2年生になられ、この春から学校に通える状態になっており、皆様に御心配をおかけしたが、今は良い形になっていることを先ずは御報告させていただきたい。
- ・今日は教育全般について、皆様に御意見を伺いたい。今日は、殊更に思っているのが、沖縄慰霊の日である。子どもたちに平和をどう伝えていくかということについて、考え続けていかなければならない大切な問題だと思っている。また、私たち県教委にとって非常に大事なことは参議院議員選挙が公示されており、1学年だいたい5千人くらいいる高校3年生の中で、この3か月くらいで誕生日を迎えた子どもたちが千数百人くらいだと思うが、子どもたちの政治参加の第一歩をどういう形で応援し、どういう形でフィードバックして、より良い鳥取県独自の形を作っていくかということが重要だと考えている。
- ・知事から話があったが、平成27年度の大綱の最終評価と、平成28年度の取組の現状を教育長から話をさせていただく。それから二つ皆様にお願いしたいのが、県立高校の小規模校において、どのように魅力化していくかということについて、これは鳥取だけではなくて、全国的なことではあるが、高校がそれぞれの子どもの個性とか地域とか伝統とかというものの中で一つ一つの学校が単純に偏差値で輪切りされたということではなく、どのように輝いていくかということ是非常に重要なテーマだと思う。私たちも一生懸命考えるが、なかなか良いアイデアが思い浮かばないところもあるので、皆様からいろんな意見をいただきたい。
- ・それから美術館問題であるが、社会教育の施設であり、学校教育に大きな役割を果たす施設である。いろんな形で検討を進めており、私たちは美術館という抽象的なものがあれば良いというのではなく、現在検討委員会で検討し、ある程度アイデアがまとまっている美術館というのは、きっとあったら鳥取県の今の世代や将来の世代にとって意義のあるものを検討しようとしている。まだ途上ではあるが、皆様にいろんな形で意見をいただき、より良いものにしたいと思っている。協議の程、よろしくをお願いしたい。

## 5 意見交換

#### (事務局)

- ・それでは早速、意見交換に入りたいと思う。今回、4つのテーマ設定をさせていただいている。教育長からの説明後に意見交換に入りたいと思う。それでは、山本教育長よろしくをお願いしたい。

#### (1) 平成27年度教育に関する大綱(第二編)の最終評価

##### (山本教育長)

- ・資料1については、平成27年度の大綱について、どのように取り組んだかということであるが、5つの柱に32の重点項目を掲げている。掲げている項目は、概ね予定通り進めたところであるが、「1 学ぶ意欲を高める学校教育の推進」の項目の授業改革の推進では、アクティブラーニングに積極的に取り組んでいこうとしており、ICTにも積極的に取組ができていていると考えている。2ページの土曜授業等については、県立学校では全ての学校で、市町村においても、ほとんどの市町村で取組が進んでいる。
- ・3ページの「2 社会全体で学び続ける環境づくり」では、地方創生ということで、ふるさと教育をしっかり進めていこうと考えており、土曜授業を活用しながら取組を進めているほか、主権者教育にも関係してくるが、全ての県立学校で学校裁量予算を活用しながら地域と連携した取組を進めるなど、予定通りということの評価をしている。
- ・4ページでは、学校支援の取組の充実を掲げているが、近年経済的に困窮状態にある家庭の子どもとそれ以外の子どもとの間で学力に格差が生じているのではないかとされている。そうした

家庭の子どもを中心にしっかり支援していこうと取り組んできたところであるが、まだ取組が進んでいないが、学習支援を行う地域未来塾に取り組むこととしており、今年度は8市町村で取組が進んでいる状況である。

- ・5ページの「3 学校を支える教育環境の充実」では、特にスクールソーシャルワーカーの力が非常に大きいことから、この会議で配置を進めることを議論し、現在は順調に進めている。
- ・6ページの「4 一人ひとりのニーズに対応した特別支援教育の充実」では、3つ目の医療的ケアの充実について、皆様に御心配をおかけしたが、今年4月から学校看護師長を配置し、体制を充実させた。昨年度は、取組としてはやや遅れているということにしているが、今年度はしっかり対応できることになっている。こうした過去の教訓等を踏まえて体制整備にしっかりと取り組んでいきたい。
- ・7ページの「5 スポーツ・文化の振興」については、ほぼ計画通り推進している。
- ・このようにしっかりと取り組んではいるが、数字としてしっかり成果が表れてきているかどうかという点については、まだまだ数字として表れてきていない部分がある。8～10ページにはその辺りを示しているが、取組が功を奏するようなものしなければいけないと考えている。

## **(2) 平成28年度の主な取組の現状**

### **(山本教育長)**

- ・資料2は、高等学校を中心に公私でしっかり連携して取り組んでいるものを幾つか挙げている。スクールソーシャルワーカーの配置については、この会議で私立高校も含めて全県をカバーできるような配置ができないか議論し、今年度は県立高校に2名増員することによりカバーすることとして向かってきているが、残念ながら、枠囲いの一番下に書いているとおり、まだ西部地区で欠員状態になっている。何度か試験をするが、うまく採用ができていないため、現在工夫してソーシャルワーカーを抱えている民間施設と連携し、施設との契約により派遣してもらうようなことを検討している。
- ・一番下のグローバルリーダーズキャンパスは、グローバル人材を育てていくため、スタンフォード大学と連携し、通信教育ではあるが、幅広い国際感覚を身に付けるということで、公立学校、私立学校を含めて全ての県立高等学校の生徒に声をかけさせていただき、7月中旬に開校式を行うこととしている。これは全国的にも初めての取組であり、成果ができれば良いと思っている。
- ・2ページには、学校連携の中で私学と様々な取組ができないかということで、平成28年度については、特に2行目に記載している倉吉東高校での「3校合同東京大学対策講座」や「1年生超難関大学志望者学習研修」などは、私学にも声をかけて一緒になって取り組んでいきたいと考えているし、土曜授業等についてもオープンにできるものは、オープンにして取り組んでいる。このように公私の連携を深めていきたいと考えており、この他にも提案があれば御意見をいただきたいと思う。

## **(3) 県立高校（小規模校）の魅力づくり**

### **(山本教育長)**

- ・資料3は、小規模校の魅力づくりである。昨年度末に平成31年度以降の高等学校の在り方について基本方針を示し、この方針に沿って検討を進めていく所存である。生徒減には基本的に学級減で対応しようと考えているが、小規模校で入学者が募集定員に満たない学校が一部で出てきていることから、しっかりと魅力づくりに取り組んでいきたいと考えている。議論はこれから深めていこうと考えており、今日は今後のスケジュールで等を情報提供させていただき、今後深まった段階で皆様に議論をしていただきたいと考えている。平成31年度に何かを改定しようとする、平成29年度中に中学生に変わる高校の姿を示す必要がある、今年度中に中身を詰めていく必要があろうと考えている。
- ・また、小規模校4校を掲げているが、地域との連携をしっかりと進めていく必要があるため、それぞれ協議会等で議論して取り組んでいきたいと考えている。
- ・これまでの主な取組は、2、3ページに掲げているが、まだまだイベント的な取組が中心となっているので、しっかりと学科や将来を見据えた骨太の方針を検討する必要があると思っている。
- ・4ページは一部の高校で定員を下回っているが、魅力化を検討している段階での定員割れであり、

我々も重く受け止めている。原因を分析していく中で、魅力化で取り組んだ内容が中学生や保護者に伝わっていないのではないかとという反省や、平成31年度以降の基本方針を出す途中の段階で、ひょっとしたらある高校が無くなるのではないかとという間違っただけの噂が流れ、それをうまく払拭できていないことも原因だと考えている。また、私立学校が魅力づくりに取り組んでおられる中で、私立学校へ進学する生徒が増えている状況にあることから、公立と私立が競い合って、より良い高校を作っていければ良いと思う。

#### (4) 県立美術館の検討状況

##### (山本教育長)

- 資料4は県立美術館の検討状況である。別添で配布しているパンフレットにこれまでの議論がコンパクトにまとまっているが、博物館が築後40数年経過している中で、県議会を中心として、老朽化や収蔵庫の狭隘化があり抜本的に議論するよう指示があり、縷々検討してきている。美術部門を外に出すということで議論を深め、平成27年7月から美術館整備基本構想検討委員会において、基本的な考え方、機能、施設設備、事業費、運営費等について、これまで6回議論していただき、ようやく全体が整理できたところである。資料に掲げているとおり、前田寛治、辻晋堂などを中心とする本県にゆかりのある作家、あるいは美術作品をしっかりとアーカイブしていき、鳥取の誇り、アイデンティティとして次世代に繋げていくことをベースにしながら、国内外との交流を通じて、県民の文化の創造性あるいは県民の魅力を向上していき、将来の子どもたちのためにも、必要不可欠な社会的インフラではないかと必要性を整理している。こうした中で、コンセプトとして4つのことを掲げているが、「①鳥取県にゆかりのある美術の蓄積・継承に努めるとともに、国内外の優れた美術を鑑賞・学習する機会を提供する。」「②県民に、鳥取県の文化的個性を確認しつつ、多彩で良質な美術に親しんでもらうことにより、文化的な獨創性・創造性を育む。」のほか、交流や観光も含めて幅広く美術館の機能を考えていくべきではないかと考えている。
- また、施設設備については、モデルということで示しているが、議論の中で必要な機能を整備するとしたらこんなモデルが考えられるのではないかとということで、基本的には島根県立美術館と同様の規模を考えると、おおよそ約85億円と試算され、下振れ上振れを勘案し、約70～100億円と示している。これはあくまでモデルであり、今後検討の余地があると考えている。また、事業計画においてもコンセプトに従い、教育普及では、子どもたちにしっかり美術教育を進めてもらうために、小学3年生には全員に来てもらうべきではないかということも計画に入れるとともに、展示品も現在1万点弱あるが、今の施設で展示しようとする、20年くらいかかるため、本県ゆかりの美術作品を展示する面積も盛り込む計画にしている。また、県外の方にも来館してもらうため、企画展の回数を増やす事業計画になっている。これらの事業を行えば、目標として、20万人の入館者が見込め、運営費は3.9億円程度必要だと試算している。
- 一方、同時並行でどこに作るかということを客観的に議論していただくために、美術館候補地評価検討委員会を設置し、審議していただいている。候補地は市町村から推薦を受け、この委員会で議論していただいた様々な立地条件に照らして審議していただき、6月21日に鳥取市役所跡地、鳥取砂丘西側一帯、倉吉市宮ラグビー場、旧鳥取県運転免許試験場跡地の4か所が適地ではないかと検討された。
- こうした検討状況に対して、様々な意見をいただいております。「場所の議論ばかりで、美術館の中身の議論が不十分ではないか」、「財政上の問題が懸念される中で、先程モデルとして示した事業計画では、事業費や面積が身の丈に合っていない、欲張りすぎではないか」、「入館者数20万人も背伸びしすぎ」という意見があった。このような意見も検討委員会にフィードバックし、議論を深めていただこうと考えているのが、現在の状況である。
- 今後の進め方としては、6月27日の基本構想検討委員会において事業規模の縮小や事業計画の見直しを議論していただこうと思っているし、美術館の中身の議論が不十分だという意見に対しては、議論はしっかりしているが、県民の皆様到我々が十分伝えていないことがあることから、県民フォーラム、出前説明会、あるいはミニフォーラムのようなものの開催も考え、県民の皆様にご理解をいただき、県民の皆様を支えられる美術館づくりを目指していこうと考えている。さらに、最終的にはある程度方向性がまとまってきた段階で県民意識調査を行い、その結果を取り込んでいながら最終的な構想の取りまとめをしたい。なお、スケジュールをガチガチに

決めるのではなく、皆様と議論を重ねながら、しっかりと検討を進めたいと考えている。

#### (事務局)

- ・このほか福島委員からの参考資料を配付している。福島委員から簡単に説明をお願いしたい。

#### (福島委員)

- ・「鳥取県スクールソーシャルワーカー活用事業全体図」を本年度初めて作成したので、資料2の補足資料として提出させていただいた。本年度から、県教委の高等学校課、特別支援教育課、いじめ・不登校総合対策センターと知事部局の教育・学術振興課の4課が、県内のSSW活用事業の充実、拡充について課題解決のための協議を行う場として、担当者会議が設置された。既に2回開催されており、今回は7月6日に3回目を開催する。この資料では、地域にスクールソーシャルワーク活用事業の幹を太く、しっかりと根を張っていこうとする様子を窺い知ることができると思う。
- ・未配置の境港総合技術高校にスクールソーシャルワーカーが配置されると、相談窓口がはっきりし全県の体制も整う。スクールソーシャルワークの視点が学校現場に理解されて、多くの子どもの幸せや学力向上につながればと思う。

#### (事務局)

- ・それでは全般にわたって、ご意見を頂戴したいと思う。山内委員様から、よろしくをお願いしたい。

#### (山内委員)

- ・まず、教育大綱の最終評価についてである。資料の「安心して学べる学校教育の推進」の中で、フリースクールに公的な補助をされたと書いてあるが、審査基準や選定する際の重点項目などについて教えてほしい。
- ・次に、フリースクールについてである。自民党の議員団が中心となって議員立法でフリースクールを義務教育の中に加えようという議論があったが、結果的には内部議論の中で、もしもそれを公的に認めると不登校を助長するのではないかと、また事業体の資格や資質が問題になるのではないかなど、教育の質が確保できないということで頓挫している。今後、国の動きが仮にそうなった場合、県としてはどのような対応を考えているかお聞きしたい。
- ・さらに、小規模校の魅力化についてである。教員の中では「学校が減びると地方が減びる」という議論があるが、一方では、人口動態や今後の子どもの動向を見て、学校を維持することが必要であるという論議もある。例えば、島根の島前高校を見ても、また宮崎や鹿児島を見ても、随分小規模校に力を入れている。宮崎のえびの市の場合、大幅定員減で減びようとしている地元の高校に、通学定期の補助など、市が千万単位の予算を投入している。鹿児島の場合もっと極端で、旧帝大に入学したら100万円、難関大学に入ったら何十万を支給するといった取組を、市が行っている。地方から都会にヒト・モノ・カネが流れている現状下で、純粋に学校を維持するのか、またそうではなく、地方を維持するために学校を維持するのか、その辺りをきちんと論議しないといけないと思う。
- ・最後に美術館について、全国の流れから考えたら、正直言って一周遅れ二周遅れという感じがする。さきほど教育長が島根県立美術館のことに触れたが、島根県立美術館は平成26年に開館15周年を迎えたが、開館以来の入館者数が450万人であり、平均すると年30万人となる。開館当初が40万人に近くだったが、その後減少し、今はV字回復している。島根県立美術館の魅力は、宍道湖畔に立つロケーションによるところが非常に大きい。夕日スポットでもあるので、県外からの観光客で美術品に興味がなくとも入ってみたいくなるようなロケーションである。また、出雲の遷宮や松江城の国宝化など、追い風が吹く中での観光資源としての美術館であるので、集客力もあり、施設の維持も可能かと思う。しかしながら、鳥取県の場合、まずはどこにロケーションを置くのかということがあるが、例えば、市役所跡地とした場合、自分が観光客なら行くのだろうか考えたら、まず行かないだろうと思う。あと、ロケーションの問題だけでなく中身の問題もあると思うが、普通の中身では多くの人の興味・関心は湧かないと思うので、思い切って「まんが美術館」にするなど、世界から人を呼び込む美術館をつくらないといけないと思う。

### (横井委員)

- ・教育大綱の27年度については概ね計画通り進んでいるということで大変評価できるのではないかと思います。ここで議論されたことがたくさん取り入れられ、なおかつそれが実行に移されて、今までにない早いスピードでいろんなことが実現していく感があり非常に喜んでいる。ぜひこのまま続けていただければと思っている。
- ・公私連携についても、その部分が私の役割と思い一生懸命発言してきたので、随分実現ができており、非常に有難いと思っている。
- ・小規模校の魅力づくりについては、幾つかの例を見た中で、「地域」と「グローバル」がキーワードになると思う。小規模校の存廃や在り方について考えるときは、学校をどうしたらいいかということ、地域住民を交えて検討することが重要であるし、学校運営をしていく場合もそうだが、基本的に地域と連携する中で学校の存続が図られないと、小規模校は成り立たない。また、学校が地域の課題を吸い上げて課題解決に向けた取組を行い、地域に貢献するというサイクルができあがって初めて存続ができるのではないかと考えている。もう一つ「グローバル」だが、学校が地域の課題だけを解決して終わりということであれば長続きしない。学校でできる範囲はごくごく限られており、ネタは尽きる。従って、実践した取組をもっと普遍的に世界に広げてみた時に、日本では、あるいは鳥取県では、また世界ではどんな問題とつながっていくのかということを含めて考えさせる教育、すなわちグローバルな教育を行う必要があり、「地域」と「グローバル」という言葉を中心に、小規模校の存続を考えていきたいというのが、私の考えである。

### (浅雄委員)

- ・保護者の立場で話をさせていただくが、これまで基本的にはいろんな話をさせていただいたことが政策の中に入ってきて、非常に有難いと思っている。しかし、幼保小の連携では、関係機関同士の連携はできているが、そこに保護者を育てるという視点がなかなか入ってきていない。保護者をどう育てるかという問題は、子どもの保育や幼保小中へとつながっていく大事な部分であるので、しっかりと取り組んでいく必要がある。
- ・アスリートの育成で成果が上がっているということだが、これがどんな運動につながって、身体的な運動テストがどれくらい上がっているのかわからないが、本当に子どもたちの体力を上げようと思うと遊びが重要である。それもとてもし楽しい遊びであって、誰かがルールを説明しなくても子どもたちの中で自然とできあがって、共有され、放課後や土、日ともなれば公園にみんなが集まって遊んだものである。現代は、これまで普通に上下間の中でできてきたその関係が切られてしまったので、これからリハビリをしなければいけないと思う。しかし、先生や保護者ではなかなか難しい面があるので、例えば、ある団体に組織的に1、2か月間学校に行ってそこで遊びが定着するまで取り組んでみるようなことを行えば、地域に帰ってきた後、子どもたちで遊ぶことができると思う。これまで、このような取組は単発にはあったが定着するまでのものがなかったと思うので、子どもたちの体幹を鍛えるという意味でも取り組まれてみてはどうかと思う。
- ・ITやプログラミングの推進は、子どもの自尊感情につながったり、あるいはこれからの子どもたちの職業につながったり、ひいては鳥取県の産業につながっていくという視点で考えていくことが大事である。
- ・美術館については、全世帯をターゲットにするのではなく、どこかに狙いを定めるべきだと思う。お年寄りにも優しい、家族連れにも優しい、そしてアニメファンにも優しいではぼやけてしまう。私たち保護者の希望は、自然の芝生があり、子どもたちと一緒に行って、一日ゆったりと過ごせるような場である。

### (石原委員)

- ・小規模校については、これまでのように集団でまとめて一度に指導していくやり方ではなく、少人数という特性を生かした教育を行っていく必要があると思う。例えば、専門高校の3年間で、プログラミングやITの開発から販売までを行ってみる。あたかも一つの会社のように、アプリの勉強から初めて、実際につくり、開発したアプリはプロモーションし、販売までを行う。すべてが社会につながっているという実感を得られるのであれば、子どもたちも意欲的に取り組むと

思う。また、まんが王国と結びつけるのであれば、エンターテインメントの要素も盛り込むことができると思う。さらに、地域の特徴を生かすのも手だと思う。例えば、青谷高校は、考古学のことを専門に勉強するような学科をつくってもいいと思う。実際近くに遺跡もあるわけだし、考古学専門の先生を呼んで、授業を行ってもらってもいいと思う。そういった特定の教養に特化した小規模校は魅力があると思う。いずれにせよ、普通高校ではできないような学びの新しい形に取り組むことが大事だと思う。

- ・美術館については、一県民としては、夫婦で行っても子ども連れで行っても楽しめる場であってほしい。また、展示内容も大事だが景観も重要である。水辺でもいいし、砂があるところでもいい。レストランも備えれば、来館者に喜ばれると思う。

### (笠原委員)

- ・ICTについて、10年以上前から情報モラルカリキュラムをつくる計画があったが、未だにできていない学校がある。以前にやりましようと言われていたのにできていない現実もあるので、その底上げが必要である。また、アクティブラーニングのような新しいこともやっていかなければいけないし、インターネットでは新しいツールもどんどん出てきているのでその対応も必要となる。インターネットについては、先生は子どもたちに教えようとするからできないのであって、先生がファシリテーターになって、子どもたちの意見を聞き出しながら、子どもたち同士で話し合い、考えさせる授業をした方がいいと思う。しかし、そのような能力のある先生とそうでない先生がいるので、教育センターで先生のファシリテート能力を高める研修を行ってほしいと思う。
- ・ビジュアルプログラミングのビスケットというものがあり、7月26日にメンター養成をして、8月に小学4～6年生にタブレットを使ったワークショップをする計画があるが、使い方だけではなく、心の問題もサポートできるような人が子どもたちの指導をしてほしいと思っている。
- ・今回、人権プログラムをつくったとあったが、どのような人権プログラムができたのか興味があるのでぜひ教えてほしい。個人的に10年くらいCAPプログラムというものを各学校に届ける活動をしている。CAPセンター・JAPANがスペシャリスト養成講座を1995年に始め、10年で全県に広めることを目標にしていたが、鳥取県は唯一10年以内にCAPグループができなかった県である。ちなみに島根県は前年にできている。今年12月には鳥取県内で基礎講座を開催するので、子どもの人権を守るといことはどういうことか、ぜひ皆様と一緒に学んでいけたらと思っている。
- ・美術館について、私の勤務先である子ども未来ネットワークではアートスタートということで、小さい子どもたちが美術、芸術に関わることをしているので、中部にできれば嬉しい。ロケーションの話もあったが、単純に県外から人が来ればよいという話ではないと思う。やはり県民が集いやすいところにあった方がいいと思う。パンフレットで紹介されているキッズコーナーはいい取組だと思う。
- ・最後に、平成27年度大綱の最終評価についてだが、大半がほぼ予定どおり推進している、となっている。やればいいのかという気がする。内容はどうか。頑張っている職員の方もいるので、できていると信じています。今後も計画どおりに進めていくことに協力していきたいと思う。

### (福島委員)

- ・小規模校について、学校の特徴をどのようにしていくかは地域によって違うと思うが、入学から卒業まで、そして卒業後の進路、さらにはその先の自分の人生までを思い描けるような、あるいは見通すことができるような教育を行ってほしい。また、本県の高等学校の修学支援金の申請が増えている現状を鑑みると、生活困窮世帯等への学習支援や、遠くから通う子どもたちの交通費の支援についても考えていかなければいけないと思う。できればこういった全体像を考えて、小規模校の取組を考えていただければ有り難いと思う。神奈川県に田奈高校というところがあるが、そこは就労の開発をしている。自分たちの学校の子どもたちを中小企業商工会などとつなげて就労の練習をする。練習したことによって、その子どもの能力を見出し、人とのつながり、地域とのつながりを深め、就労に結びつけている。本県もこのような取組ができればいいと思う。
- ・美術館について、私は平成5年に鳥取県に転居してきた。美しい県だと思う。また、人とまちと

のつながりが濃く、人情味に溢れていて、移住してきた多くの方が鳥取県で自分の人生を終えたいというのも十分理解できる。鳥取県内の皆様が思っている以上に、県外から見て魅力のある県だと感じる。鳥取県内で十分議論されて、素敵な美術館ができることを願うし、県外からの集客を考えると、東京などへの情報発信も含めてその方策を考えていただけると嬉しい。景観や交通の利便性も重要だが、魅力あるところには人が集まってくる。今ある資源を使うことも大事だが、新たな施設に対するアイデアが加えられ、魅力ある美術館となることを願っている。

#### (事務局)

- ・有識者委員から一通りご意見をいただいた。質問等があったので、教育長から回答があればお願いしたい。

#### (山本教育長)

- ・山内委員から話のあったフリースクールについては、不登校を助長するというので法案がストップ状態になっているが、鳥取県ではフリースクールのガイドラインを定め、そこに記載している要件を満たしていれば、知事部局からの補助金が出されている状況にある。法案の議論が進んでいくと、このガイドラインを見直さないといけなく考えている。なぜならこのガイドラインがフリースクールに求めているのは、学校に復帰することを前提に考えているため、今の議論が進めば、おそらく学校復帰ということではなくて、フリースクールの中で教育が完了していけば良いということになるかと思うので、改めていろんな議論が必要だと考えている。
- ・小規模校の魅力化についても多々御意見をいただいた。グローバルな考え方や地域との連携はしっかりと盛り込んで検討すべきだと思っているし、住民も含めた検討も引き続き行いたいと考えている。また、それぞれの地域の特徴を生かすということで、青谷高校で考古学の授業というアイデアがあったが、そのようなアイデアを含め小規模校でどのような取組ができるか考えていく必要がある。また、人生の見通しが立てられるような示し方という意見に対しては、現在、キャリア教育という括りの中で、見直しをしているところであるが、高校を目指す時に自分の人生がどうなるかということも、高校選択の一つの大きな要素であろうと思うので、改革の中身を考える時も、中学生や保護者にそうしたものを示すことができれば良いと思っている。
- ・プログラミング教育のことが浅雄委員と石原委員から話があったが、2020年に小学校にプログラミング教育が導入されるが、5月県議会でも今後人工知能が発達すると、様々なことが変わってくることが予測され、プログラミング教育に取り組んでいくべきだと考えているが、プログラマーを育成するための教育ではなく、あくまでアクティブラーニングの延長線上にあると捉えてプログラミングの手法を取り入れていこうと考えているところであり、いろんなところでお力添えをいただきたい。
- ・笠原委員からは教員のファシリテートの力が必要だと話があったが、まだファシリテートの研修はしていないが、アクティブラーニングを進める中で、教員にはファシリテート能力が必要だと考えているので、今年から採用試験に中でそのような力をみるような試験をしようと思っているし、研修の中でも取り組んでいきたいと考えている。
- ・美術館についても多々御意見をいただいた。立地についていただいた意見は検討委員会での議論にも繋げていきたいと思うが、必要性を考えていくときに、観光客の誘致を中心に考えるべきか、県内の子どもたちを中心に考えていくべきかということをしつかりと押さえて議論すべきだと感じた。

#### (大場理事監)

- ・鳥取県は美術館がないわけではない。博物館の中には、自然、歴史、美術の3分野がある。パンフレットにも記載しているとおり、博物館は様々な問題を抱えており、これを何とかしないといけないという議論の中で、美術館を整備するという話が出てきている。美術館は約20年前にも作ろうという話があったが、建設場所等の問題で凍結された経緯がある。それ以来、美術館は作らないが、ソフトは充実させようということで、美術品の収集、学芸員の充実、普及活動の充実などを行い、それなりの蓄積ができてきている。したがって、美術館を作るに当たっては、その蓄積を生かしたものにしなければいけないということで、一風変わった美術館を作ることは難し

い。そういう意味でマンガ美術館を作ることは難しいが、資料4に記載しているとおおり、まんが王国という本県の特性を生かして展示することを考えていきたい。

- ・また、必要面積を積み上げると1万2千平米となり、島根県立美術館並みの面積になってしまったので、議会からも身の丈に合ったものとするようにとの意見も出ている。よって、そのことも考えていけないといけないと考えている。
- ・さらに、景観の良いところとか、市街地とかいろいろと議論がある。確かに島根県立美術館は景観もよく、市街地なので、そこまで集客は難しいとの意見もあるため、集客についてもいろいろと考えていけないといけないと考えている。
- ・ターゲットについても、子どもを中心に考えているが、いろんな方に普段着感覚で飾らずに立ち寄っていただく美術館にすることも考えていきたい。皆さんからの意見も聞きながら、より親しまれ、より利用される美術館を検討していきたい。

### (事務局)

- ・次に、教育委員の皆様からご意見をいただければと思う。

### (若原教育委員)

- ・小規模校の問題については、地域の活性化と学校の存続は、一体的に繋がっている問題だと思う。地域の人口が減少すると地域経済が縮小し、益々人口が流出し、学校の存続も危ぶまれるという負のスパイラルに陥ってしまう。それを食い止めるためには、学校の力も地域の力も必要である。人材を育成する学校と、その人材を受け入れる企業や、地域の活性化を進める行政、地域活性化や地域貢献を目的に活動している団体など、地域の様々な力や資源が連携協力して、地域を活性化させ、学校を活性化させることが必要であると考えているが、私にも決め手となる具体的な案があるわけではない。地域、地域と言っても、地域の中で完結するのではなく、グローバルな視点も必要であるという点については、地域で世界を視野に入れて活動されている中島教育委員長の鳥の劇場がその典型になるのではないかと。
- ・この前、ある農業高校の校長先生と話をしていたら、農家の跡継ぎの生徒であっても、やはりT P Pには関心を持っているし、どういう作物を育て、どのように流通させていくべきか関心を持つようになってきていると言われていた。また、生徒の中には入学してきたときから、世界で活躍できる庭師、造園師になりたいと思って、頑張っている生徒もいると言われていた。やはりいろいろな工夫で子どもたちにグローバルな視点を目覚めさせていくことができると感じた。
- ・美術館については、無いと今すぐ困るようなものではないが、建設に積極的な理解を求めるには大変な努力が必要だということは、私も体験上よく理解している。以前、京都で仏教ミュージアムの設立に携わったことがあり、この場合は京都という地の利もあったし、仏教ミュージアムという世界にもあまり例がない特色があるものなので、理解が得やすかったが、それでもやはり慎重な意見もあった。やはり採算を考えると人が集まるような特色のあるミュージアムでないといけないし、人が集まれば、地元も喜んでいただける。私は県立美術館の設置に大賛成であるが、作る以上はより立派なものを作っていたきたい。

### (松本教育委員長職務代行者)

- ・大綱の評価については、何々したというだけでなく、その結果がどうなのか。例えば、職員の多忙化が評価通り成果が表れているのか疑問に思っている。これした、あれしただけでは、もどかしいと思っているので、今後の評価の仕方として、文章や数値にしても仕方ないが、何とか工夫してほしいと思っている。
- ・小規模校の魅力化については、存続の危機に面しているということを教育委員になって初めて知った。最初はどのようにして存続させないといけないのかと思っていたが、地域の存続してほしいという強い思いがわかるので、必要性は理解した。今年の入学状況を見ると、その地域からの入学者は少なく、学力の問題があってこの学校に入学してくる。定員割れしているが、何とかこの学校に入学して頑張ろうとしている子どもたちである。その生徒に対して今の高校が提案しているカリキュラムはしっかりしていると思うが、低位安定という言い方は変だが、学校としての体をなす人数を確保できれば、小規模校であっても頑張っていていくことに意味があるのだと思う。

それをさらに飛躍させてもっと人数を多くし、全国にも発信できるような高校にしたいのであれば、清水の舞台から飛び降りるような気持ちで、何かに特化したものを打ち出すべき。私は教育委員になって4年近く経つが、4年前くらいから同じような話があるにもかかわらず、何が実現できているかと言うと、平凡な、頭の固い私たちでも考えることができるようなことしか実現できていない。それを飛び越えたことをやるとなると、誰が、いつやるのか、お金はどうするのかということになる。それでもやるしかないんだと思う。失敗するかもしれないが、失敗したら、やり直せばいいので、是非やってみたらどうですかというのが私の正直な気持ちである。

- ・美術館については、私は揺れ動いている。博物館の招待券をもらって行く機会を与えてもらっているが、本当に興味があるものしか行っていない。博物館の入館者数は年間6万人であるが、この数字が県民や鳥取市民の興味のレベルだと思うので、美術館ができて20万人の入館者は難しいと思うし、観光客の集客についても今回の候補地を見てみるとそこまで見込めるのか疑問である。今日出た意見の中に、家族が1日楽しめる場所が欲しいという意見があったが、私も同感である。県内にエンターテインメントに特化したものがない。遊園地が欲しいということではなく、ちょっとお茶を飲んで、のんびりできる場所がないので、そういうことも兼ねた良いロケーションの美術館ができれば、私としては満足である。果たしてできるでしょうか。

### (坂本教育委員)

- ・小規模校については、地域を挙げて一生懸命高校を守っていこうと意欲が感じられる。私は定員割れしている高校の近くに住んでいるが、町、商工会、森林組合、いろんな団体が寮を作って、来年度は県外からの生徒を受け入れるんだと言っているのだから、期待している。地元の高校のキャリア教育について思うことがある。強い子どもたちを育ててほしいという気持ちがあり、一般企業としては、資格は入社してからでも何とかかなると思うので、心が強く、しっかりとした道徳心を持った働く意欲のある子どもが欲しいと業者の方が言われるので、これが地方の小規模校の存在意義ではないかと思ひ、働く意欲を持った子供を育ててほしいと思う。
- ・美術館については、NHKの教育テレビで日曜美術館の放映があると、ものすごく美術館に行けなくて、私はルノアールや伊藤若沖を見に行くが、中に入れず、近くで食事をして帰ることになるので、美術館は展示内容によっては、どこに建設しても重要なポイントではないと思われるので、その辺りも考えてほしい。

### (佐伯教育委員)

- ・県教育委員会では、全国学力・学習状況調査の抽出調査を実施し、早くその結果を返すことによって、鳥取県の子どもの課題を明らかにし、具体的な改善方法を発信していこうとする取組を行っている。これについて、先日訪問した校長と話をしたら、自分の学校では抽出ではなく、全員分の採点をして学校の課題が明らかになったので、1学期から授業改善に取り組んで、子どもの力をつけるようにしていると聞いた。こういう学校が少しずつ増えていき、細かいところから自分の学校の子どもの課題を見つけ、授業改善に取り組むことが、全国学力・学習状況調査の目的だと思うので、良い方向で動いている学校があったので報告させていただいた。
- ・小規模校については、通っている子どもは最初は望んでいかなかったが、入学していろんな刺激を受けて、先輩との交流もあり、喜んで通っているという話を先日青谷高校の校長先生から聞いた。このような子どもがいることを広めていかないといけないということを教育委員会中で話をし、共通理解した。このようなことをもっと情報発信していくことで、人数は少ないかもしれないが、満足感を持って学んでいる生徒がいることを皆にわかってほしいし、地域の小学生や中学生にも伝えることで、自分もあの学校に行き、あんなことがしたいという気持ちが生まれることになるので、これを第一歩として小規模校の取組を広げていきたいと思う。
- ・美術館については、小学校3年生の全員が美術館に行けるという取組が書いてあって、とてもワクワクした。本物に触れるということはとても大切なことであり、鳥取県の子どものそういう機会に恵まれることはとても良いことである。美術館に行って帰ってから、とても良かったと周りの人に言えば、家族で行ってみようということにもなる。また、中学校や高校の美術部の生徒が美術館の学芸員から専門的な話を聞いて、自分の芸術的センスを伸ばしてくれるような美術館ができたらいと思う。

## (中島教育委員長)

- ・様々な意見をいただき、感謝を申し上げる。
- ・まず、大綱に掲げていることについて、笠原委員から発言があったとおり、私も折に触れて思う。「予定通り推進している」と評価しているが、人材育成で「達成できた」とはなかなか書けないが、やると決めたことをやればそれで良いかと言えば、そうではないだろう。目標との関係の中で常に手段を精査していくということを考えなければいけない。このことは松本委員からも指摘があったが、肝に銘じておかないといけないと思っている。
- ・小規模校の魅力づくりについても、皆様からいろんな意見をいただいた。私も横井委員の意見に賛同した。いろんな形で地域の方の声を聴いて、地域学という形で地域を見つめるということをするような学校で行うが、それで終わってしまって、高等学校の教育がそれでいいのかという疑問が常にあると思う。やはり、小さいところを見つめることから、歴史や世界に繋がっていくという学びの醍醐味に向かってどうやって子どもたちを導いていくか、ファシリテーションしていくかということは重要な課題であるが、我々は本質的なアプローチができていないことを課題として感じている。
- ・美術館のことについては、若原委員から無くて困るものはないけどという意見があったが、私はあえて別の視点から申し上げたい。人間は便利になったが、今ほど孤独な時代に生きていることはないのではないか。ITやテクノロジーに囲まれて生活は便利であるが、私たち一人ひとりの魂の孤独はどうなんだと考えたときに、ものすごく深まっているのではないかと思う。作品名はわからないが、前田寛治の帽子をかぶった黒い服の女性を見たときに、前田寛治があの時代にヨーロッパに渡り、日本という訳のわからない国から来た青年が洋画を学んでいるという中で、モデルを呼んできて、フランス社会の中でどういう扱いを受けながら、あのモデルをどうやって雇い、どんなことを考えながら、あの絵を描いたんだろうと思うと、彼の精神の飢えとか孤独や向上したいという思いがわかるような気がする。大袈裟に言うと、このような孤独な時代において、美術館は人の生き死にの問題だと、そういう視点も大事にしたいと思っている。

## 7 最後に

### (知事)

- ・今日は本当に多様な視点からご意見を賜り、感謝申し上げます。結論から言うと、今ここで話したこと、これがすべてそのまま今日で決着ということもないと思う。例えば、小規模校はこれからの問題である。学校再編に向けてということであれば、かなり長丁場であるため、今日の議論も参考にして、教育委員会の方でまずは案を考えていただき、我々の方で改めて審査をする機会を持つということだと思う。
- ・また、美術館については、全体の話を上げると、今日皆様、意外なことに美術館の建設、必要性についてはポジティブだということに一致されていることに驚いた。実は県議会では両方の議論があり、松本委員が言いかけたような「こげにお金をかけんでもいいがな」と言わんばかりの意見も結構出てくるわけであるが、さきほど委員長から魂という話があったが、やはり地域のインフラとして必要なものではないかということで、いい形のものをつくろうというのが、恐らく県民の皆様の底辺にあるのではないかと思った。これを、実は夏以降に、大場さんのところでもかなり精力的にまとめ上げるので、次回我々が集まる頃には「こげなもんになりました」ということになるかもしれないが、ぜひ今日の意見を反映していただければと思う。
- ・また、大綱のフォローアップや今後の方針についても、様々ご意見があった。ICTの問題だとか、あるいは社会につながっていく感じられる教育であるとか、また、保護者を育てるような教育であるとか、スクールソーシャルワーカー、フリースクールなど公私連携も含めて話があったが、それぞれフォローしていただければと思う。
- ・ただ、私は委員長の話にもあったし、松本委員あるいは笠原委員からもあったが、大綱のPDCAサイクルの回し方については、もう少し素直にやってもいいのではないかという気がする。佐伯委員がおっしゃったように、例えば、学力調査の結果も即教育現場に生かしてもらえればいいというだけの話だろうと思う。そのことをなかなか言いづらい時代があって今オブラートに包んだ感じになっているが、もう少し端的に、次回の大綱策定をするときにはPDCAサイクルを回

しやすいような形にしてはどうかと思う。

- ・率直に数字で申し上げれば、例えば、高校の学力向上の推進に係る指標の達成について、自分たちの学校が立てている指標の達成状況が54%。これが高いかどうか。また、体力のところ、資料1の9ページに並んでいるが、100%以上を達成しているところがないという状況。それから、学力調査の状況が10ページに並んでいるが、小6と比べ中3の達成率が顕著に低い。この辺をやはり、本当は問題があるのだろうと思う。少なくともPDCAサイクルを回すのであれば、この問題に対する対策を考えなければいけないが、前の方にある最終評価では、すべてほぼ計画どおりに達成している、となっている。中島委員長がおっしゃったように、これをやりなさいというのがリストに書いてあって、それはやっている。しかし、それが結果に結びついていないのであれば、PDCAサイクルを回して、次は別の対策を立てる必要がある。さきほど佐伯委員がおっしゃったようなもっとストレートなやり方もあるのかもしれないし、PDCAサイクルの回し方については、もっと有効に機能する形で回していけば、鳥取県教育は一層進展するのではないかと思う。以前はこういう議論がしづらかったが、だいぶん総合教育会議を回してきて、意見が出るようになってきたと思うので、ぜひ次回に向けては再検討をさせていただければと思う。

#### **(事務局)**

- ・以上をもって、本年度第1回鳥取県総合教育会議を終了する。